飛島村津波ハザードマップ

発行 令和3年3月

わが家の避難先

避難先を記入しておきましょう！

平成23年施行の津波防災地域づくり法に基づく、愛知県からの津波災害警戒区域及び基準水位の指定・公表を受け、飛島村においても、津波ハザードマップを作成しました。この津波ハザードマップは、災害発生時における人的被害を防ぐため、津波による被害が想定される区域や基準水位、避難に関する情報を住民のみなさまに分かりやすく提供することを目的としています。円滑かつ迅速な避難ができるよう、被害の範囲や避難所を把握し、避難行動にお役立てください。

飛島村などからの情報発信

飛島村

音声自動応答サービス

音声自動応答サービスは、同報無線で放送した内容を聞き逃した場合、聞き取りにくい場合などに、電話で確認することができるサービスです。

（電話番号）0567-52-1451

- おかけ間違いのないようにお願いします。
- 通話料金がかかります。
- 混雑時には通話中となることがありますので、しばらくしてから再度おかけ直しください。

飛島村HP http://www.vill.tobishima.aichi.jp	飛島村防災メール https://service.sugumail.com/tobishima/member	飛島村防災情報Twitter https://mobile.twitter.com/tb_bousai	飛島村バスロケーションシステム http://tobishima.bus-go.com

その他の災害関連情報

国土交通省 川の防災情報 https://www.river.go.jp	国土交通省 防災情報提供センター https://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho	気象庁HP https://www.jma-go.jp/jma	名古屋地方気象台HP http://www.jma-net.go.jp/nagoya
木曽川下流河川事務所 https://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu	愛知県防災安全局 https://www.pref.aichi.jp/bousai	気象庁Twitter http://twitter.com/JMA_kishou	首相官邸（被災者応援情報）Twitter http://twitter.com/Kantei_hisai
愛知県川の防災情報 https://www.kasen-aichi.jp	愛知県災害関連情報ポータルサイト https://www.pref.aichi.jp/site/aichisaigai-portal	愛知県防災安全局Twitter http://twitter.com/aichi_bousai	首相官邸（災害・危機管理情報）Twitter http://twitter.com/Kantei_Saigai
		総務省消防庁Twitter http://twitter.com/FDMA_JAPAN	内閣府防災Twitter http://twitter.com/CAO_BOUSAI
			防衛省・自衛隊（災害対策）Twitter http://twitter.com/ModJapan_saigai

飛島村の特性

飛島村は、愛知県の南西部、海部郡の南部に位置し、東は蟹江町及び名古屋市、西及び北は弥富市、南は伊勢湾の最北部に面しています。

河川は東を日光川、西を筏川、水路は北を古川、中央部に下川が流れています。

北部は干拓造成した地域で、海抜ゼロメートル地帯であり、排水は全て機械排水に頼っています。南部は伊勢湾を埋立造成した地域となっています。

津波の特徴と脅威

- 津波は河川、運河、水路を遡上する！
- 海が浅いほど波が高くなる！
- 津波は何度も襲ってくる！
- 津波は引き波で始まるとは限らない！
- 津波は小さな地震でも発生する！
- 津波は予想より大きくなる可能性がある！
- 津波はあらゆるものを破壊する！
- 津波は第一波が一番高いとは限らない！
- 津波が来ると水位が膝上の高さでも立っていられない！

何回も襲ってくる！

川も水路も溢れながらさかのぼる

より高いところへ逃げる！

水位が膝上の高さでも立っていられない！

津波から身を守るためには…

津波が発生したときにとるべき行動

1 常に津波の発生を考えておく

- 強い揺れや長い揺れを感じたら、津波が来ると考えてください。
- 感覚的には小さな地震であっても、揺れが長時間続くような場合には、津波が来る危険性があります。小さな地震なので津波は来ないといった油断は禁物です。

2 とにかく早く高い場所へ逃げる

- 揺れがおさまり次第、津波警報や津波注意報の発表を待たず、とにかく早く、少しでも高い所に逃げましょう。
- 避難所に行くには時間がかかりすぎるという場合は、近くの高台や頑丈な高い建物に逃げましょう。原則として、車は使わずに歩いて逃げてください。
- 非常時持ち出し品をあらかじめ準備しておき、素早く避難しましょう。

3 安全が確認されるまで

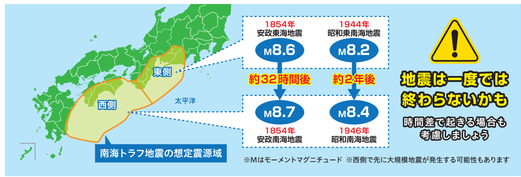
- 安全な場所への避難が完了したら、完全に津波の危険性がなくなったことが確認できるまでその場所を離れないでください。
- 気象庁発表の正しい情報で確認しましょう。間違った情報を鵜のみにしないように注意しましょう。
- テレビ（ワンセグ放送）やスマホ、ラジオなどで最新の情報を入手してください。積極的な情報収集を行いましょう。

南海トラフ地震臨時情報・事前避難対象地域

南海トラフ地震臨時情報とは

南海トラフ地震が想定される震源域において、東側か西側のどちらかで地震が発生した場合、残りの半分の想定震源域内にも地震が発生する可能性について調査が行われます。

その調査中の期間は「南海トラフ地震臨時情報」という情報が気象庁から発表されます。



情報発表時の避難行動

南海トラフ地震臨時情報が発表された場合、その期間中に後発地震が発生してからでは、避難に間に合わないおそれがある地域では、事前避難又は継続避難をする必要があります。

その限られた地域のことを「事前避難対象地域」といいます。

事前避難対象地域とは

事前避難対象地域は、国が公表している「南海トラフ地震の多様な形態に備えた防災対応検討ガイドライン」により以下の視点を基本としつつ、飛島村が指定するものです。

〈 津波による浸水想定区域 〉

30cm 以上の浸水が地震発生から 30 分以内に生じる地域

〈 堤防沈下等による即時浸水想定区域 〉

津波到達前に地震動に伴う堤防沈下等の影響により、30cm 以上の浸水が地震発生から 30 分以内に生じる地域

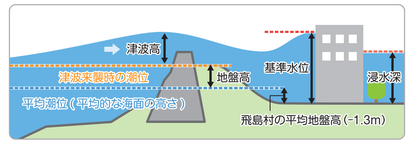
以上に該当する地域では、後発地震発生後の避難では、間に合わないおそれがあるので、速やかな避難ができるよう、避難路の確認や非常用持ち出し袋の用意など、より一層家庭内の備えを徹底してください。

飛島村における事前避難対象地域

津波警報・情報

津波による災害の発生が予想される場合に、3分を目標に気象庁が津波警報・情報を発表します。必要がある場合は、すぐに避難を開始しましょう。

種　類	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害ととるべき行動
		数値での発表（津波の高さ予想の区分）	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。	10m超（10m＜予想高さ） 10m（5m＜予想高さ≦10m） 5m（3m＜予想高さ≦5m）	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。**ただちに海岸や川沿いから離れ、高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。**
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	3m（1m＜予想高さ≦3m）	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。**ただちに海岸や川沿いから離れ、高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。**
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m（0.2m≦予想高さ≦1m）	（表記しない）	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。ただちに海から上がって、海岸から離れてください。



津波情報

津波警報・注意報を発表した場合、津波の到達予想時刻や予想される津波の高さなどを発表します。

種　類	内　容
津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報	各津波予報区の津波の到達予想時刻や予想される津波の高さを発表します。
各地の満潮時刻・津波の到達予想時刻に関する情報	主な地点の満潮時刻・津波の到達予想時刻を発表します。
津波観測に関する情報	実際に津波を観測した場合に、その時刻や高さを発表します。

津波予報

地震発生後、津波による災害が起こるおそれがない場合には、以下の内容を津波予報で発表します。

発表される場合	内　容
津波が予想されないとき	津波の心配なしの旨を地震情報に含めて発表します。
0.2m未満の海面変動が予想されたとき	高いところでも 0.2m未満の海面変動のため被害の心配はなく、特段の防災対応の必要がない旨を発表します。
津波注意報解除後も海面変動が継続するとき	津波に伴う海面変動が観測されており、今後も継続する可能性が高いため、海に入っての作業や釣り、海水浴などに際しては十分な留意が必要である旨を発表します。

今後、発生が予想される地震

内閣府では、今後発生が予想される大規模地震について、専門調査会を設置して被害を想定したり防災戦略を立てたりするといった対策を講じています。

また、愛知県においても、南海トラフ地震の被害の想定（津波、液状化、建物の倒壊など）を行っています。さらに、飛島村においてもこれらの想定を参考にしながら、公共施設などの耐震化の促進や新たな避難所の整備など、防災・減災に向けた取り組みを進めています。

今後、発生が予想される地震に対しては、家屋の倒壊防止や室内の安全対策を行うことで、みなさまの命を守り、被害を最小限に抑える「減災」につながります。

	東海地震	東南海・南海地震	南海トラフ地震
今後、発生が予想される地震	駿河湾西岸から遠州灘東部を震源域として、近い将来発生する可能性が高いとされる地震。マグニチュード8クラスと想定されている。	遠州灘から四国沖の広範囲で発生が予想される地震。100～150 年間隔で発生し、東海地震とも併発のおそれがある。	駿河湾から九州東方沖に延びる海底のくぼみ（トラフ）一帯を震源域とする大規模な地震。科学的に想定し得る最大規模の被害をもたらすおそれがある。

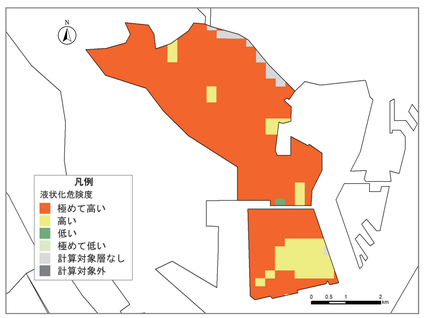
地震の被害想定

1. 飛島村における地震動は、村内において最大震度７と想定されます。
2. 液状化の危険度は、村内全域において極めて高いと想定されます。

液状化とは

砂が堆積した地層や、埋め立て地などの緩い地盤が、地震の震動により、一時的に液体のような状態になる現象のことです。液状化が起きると、建物の倒壊や道路の陥没などの被害が想定されます。

飛島村における液状化危険度



※危険度判定には地盤改良等の液状化対策効果は見込んでいません。

防災・減災の耐震対策

地震によって、部屋中の家具が倒れ、耐震性の低い建物が倒壊することにより、人が亡くなったりけがをしたりします。また、割れたガラスや散乱した食器などでけがをすることもあります。

いつ地震が発生しても被害を抑制できるように、建物の安全性や室内の危険箇所などをチェックしておきましょう。

家屋の倒壊防止

1	耐震診断を受ける	自分の体の健康診断と同じように家屋も耐震診断が必要です。一般的に昭和56年5月以前に建てられた建物は、耐震性に問題があるといわれています。自分の家が何年に建てられたのかを調べて、該当する場合は耐震診断を受けましょう。
2	必要な補強を行う	耐震診断を受けて耐震性に問題があると診断された場合は、耐震改修工事を受ける必要があります。自分自身や家族の命を守るために、早期に工事を行いましょう。

飛島村においては、耐震化を促進するために以下の補助を行っています。

- 無料耐震診断の実施（木造住宅のみ）
- 耐震改修工事の補助（工事費と補強計画費で180万円）
- 簡易耐震改修費（リフォーム）の補助（耐震改修工事費（附帯工事費を含む。）の2分の1以内又は30万円の低い方）
- 民間木造住宅段階的耐震改修の補助（一段階工事費で上限100万円、二段階工事費で上限80万円）
- 民間住宅地盤改良費(液状化対策)の補助(地盤調査及び液状化対策工事で上限25万円)

室内の安全対策

家具別の転倒防止対策

タンス・棚

L字金具、ポール、ストッパーなどを使って、壁・柱・かもいなどに固定します。2段重ねの家具は、重ね留め用金具を使って上の家具の落下を防ぎます。特に、ポールを使用して固定する際は、ストッパーや粘着マットを併用しましょう。

テレビ

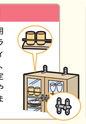
できるだけ低い位置に置いて、専用の固定用金具やベルトなどで固定します。壁・床に固定されたテレビ台とテレビを直接固定するのが確実です。

冷蔵庫

専用のベルトで固定します。ベルトは家電量販店などで販売されています。特に、ポールを使用して固定する際は、ストッパーや粘着マットを併用しましょう。

食器棚

専用の扉開閉防止用具をとりつけます。ガラス面には飛散防止フィルムを貼ります。特に、ポールを使用して固定する際は、ストッパーや粘着マットを併用しましょう。



照明器具

つり下げ式の照明は、チェーンや金具を使って天井に固定します。

ピアノ

専用の耐震固定具が販売されています。購入店・メーカーに問い合わせましょう。

その他の家具などは粘着マット等で固定します。また、不用なものは処分しましょう。日頃から部屋を片付けておくことで、避難がスムーズになります。

場所別の安全対策

寝室

寝室に倒れそうな家具は置かないようにしましょう。家具がある場合は、ベッドや布団の位置が家具の転倒方向と重ならないように配置しましょう。

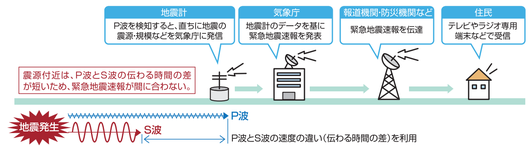
出入り口・通路

いざというときの避難路を確保するために、出入り口や通路に荷物を置かないようにしましょう。

ガラス類付近

窓ガラスは内側に、食器棚や額縁などの家具のガラス面は外側に、飛散防止フィルムを貼りましょう。

地震情報の発信



地震発生後の行動

いざ地震が発生したときに、冷静に行動するのは難しいものですが、一瞬の判断が生死を分けることもあります。地震が発生しても慌てず、冷静に対応するための行動パターンを覚えておきましょう。

1 地震の発生

自分の身を守る	最初の大きな揺れは1～3分間ほどです。 家具の転倒やガラスなどの飛散に注意して、テーブルや机の下などに隠れましょう。慌てて外に飛び出すのは危険です。 緊急地震速報が発表されたときは、ドアや窓を開けて避難出口を確保しましょう。

2 揺れがおさまったら

出火防止	揺れがおさまったら、出火防止のためにガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とします。もし出火したら、すぐに消火しましょう。 なお、震度5相当以上の地震の場合は、ガスメーター（マイコンメーター）が自動的にガスを止めます。
避難出口の確保と避難	ドアや窓を開けて、避難出口を確保しましょう。 非常持ち出し品を手近に用意します。また、避難する際には、ガラスなどの破片から足を守るため、必ず靴を履きましょう。
安全確認	家族の安全を確認しましょう。また、ご近所に声をかけましょう。小さい子どもがいる家庭や高齢者などの災害時要援護者がいる世帯には積極的に声をかけて、安否を確認しましょう。

3 地震発生から3日目くらい

余震に注意	大きな地震の後には余震が発生します。倒壊した家屋には近寄ったり、入らないようにしましょう。 また、ブロック塀やガラス、垂れ下がった電線にも注意しましょう。
近隣所での活動（自助・共助）	備蓄しておいた食料、飲料水などの生活必需品を利用しましょう。災害発生から3日間は外部の応援・支援は期待できません。 ラジオや飛島村の広報などで災害情報、被害情報を確認しましょう。間違った情報に惑わされないように注意しましょう。 ご近所同士で協力し合って、消火活動、けが人の救出・救護、災害時要援護者の支援にあたりましょう。

4 地震発生から4日目以降

余震に注意	引き続き余震に注意しましょう。倒壊した家屋には近寄ったり、入らないようにしましょう。
避難所生活	自治会（区長等）や自主防災組織を中心に行動しましょう。 集団生活のルールを守り、お互いに助け合い、譲り合いの心をもって行動しましょう。

家族との通信手段

災害用伝言ダイヤル171

被災地から自分の安否や所在を音声で録音することができます。また、家族や知人がその音声を聞くことができます。

171 にダイヤルする

録音の場合 1　／　再生の場合 2

ガイダンスが流れる

自宅の番号などを登録（0(5)2)XXXX-XXXX）　／　相手の番号を入力（0(5)2)XXXX-XXXX）

ガイダンスが流れる

録音：私は無事です。今、○○小学校に避難しています。

再生：私は無事です。今、○○小学校に避難しています。

【問い合せ先】局番なしの116番

【詳　細】

- http://www.ntt-west.co.jp/dengon
- http://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171

災害用伝言板

大規模な災害が起こると、被災者の安否情報などを10件まで100文字以内で登録することができます。お使いの携帯電話会社でそれぞれ開設されますので、確認しておきましょう。

MENU 災害用伝言板

トップ画面に表示される「災害用伝言板」を選択

登録　／　確認

「災害用伝言板」の中の「登録」を選択：災害用伝言板 被災地の方のみ 情報の登録ができます 登録 確認 削除

「災害用伝言板」の中の「確認」を選択：災害用伝言板 被災地の方のみ 情報の確認ができます 登録 確認 削除

現在の状態について四つの中から選択したと、必要なら5コメントを入力

●状態 □無事です □自宅にいます □被害が軽かです □避難所にいます ●コメント入力 登録

安否確認したいA人の携帯電話番号を入力して検索ボタンを押すと登録内容が確認できる

安否情報を確認したい方の携帯電話番号を入力してください。 検索

NTTドコモ	http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
au	http://dengon.ezweb.ne.jp
ソフトバンク	http://mb.softbank.jp/mb/service/dengon

家族の緊急連絡先

名　前	連絡先	避難する場所	家族の集合場所
記入例　飛島　太郎	080-○□△×-○□△×	北拠点避難所	北拠点避難所